

資質・能力を育むための 教育課程、教育活動計画を考える

これからの時代を生きる生徒にどのような資質・能力を身につけさせるのかを明確化し、それを育成するための指導の確立が今、求められている。具体的な指導を進めていく上でのよりどころとなるのが教育課程、教育活動計画である。今後求められる教育課程、教育活動計画は、これまで学校現場で運用されてきたものとのような点が異なるのか、実際に運用する際のポイントは何か、実践事例を交えて考えていく。

学校教育目標を打ち出し 次の一歩を踏み出す

本誌6月号の特集では、AI（人工知能）の発達などを背景に予測困難な変化を遂げていくこれからの時代を切り拓いていくため、各校が、自校の生徒に必要な資質・能力（コンピテンシー）を明確化し、それらを育成する指導を確立できるように、次の自校の姿を描く「学校教育デザイン」という考え方を提示した。「学校教育デザイン」は、学校教育目標から教育課程・指導計画の策定、授業・指導実践、その評価・検証、そしてさらなる授業・指導改善まで

の一連のサイクルを、教科間・教師間で連携をしたり、地域や保護者等の外部資源を活用したりしながら学校全体で回していく営みを指すものだ（図1）。

そして、同号では、「学校教育デザイン」の第1ステップであり、最も重要な要素の1つである学校教育目標について、これからのあり方を考えた。

これからの学校教育目標には、自校が生徒にどのような資質・能力を育成するのかを明確化することが求められる。そして、育成を目指す資質・能力は、学習指導要領を受け止めつつ、校訓や校是、建学の精神、

図1 「学校教育デザイン」概念図

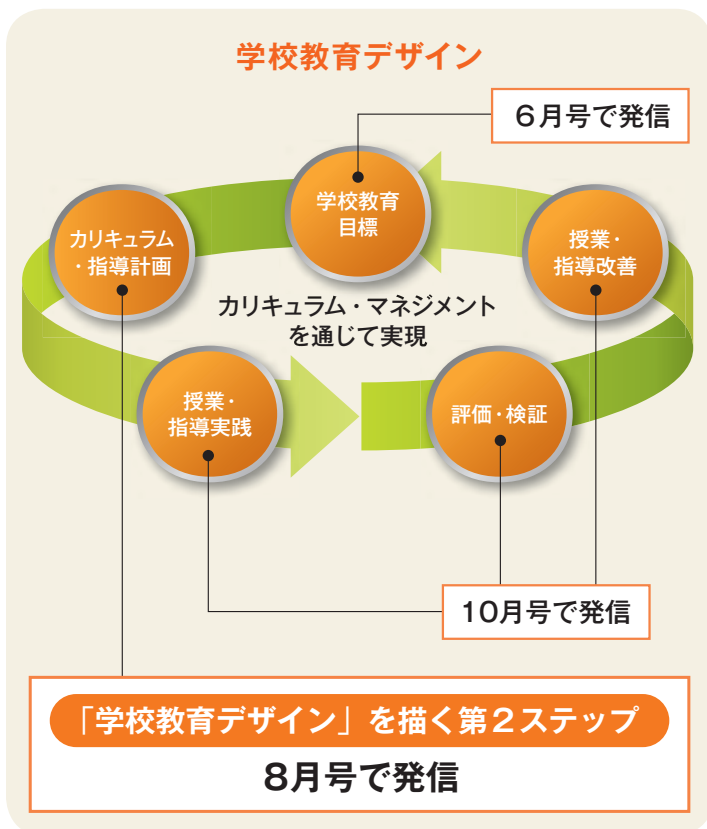
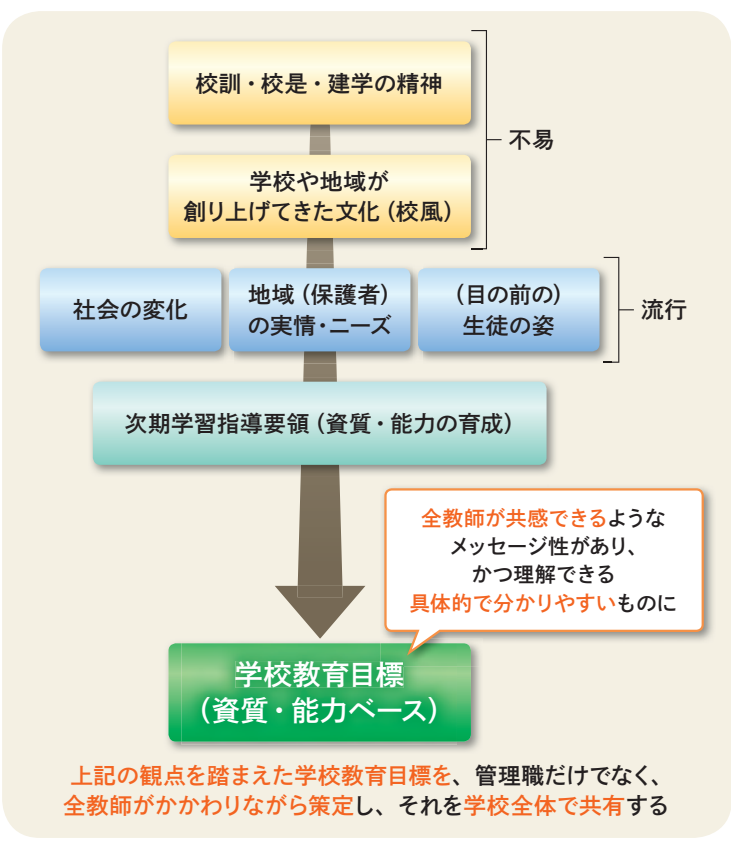


図2 これからの学校教育目標のあり方

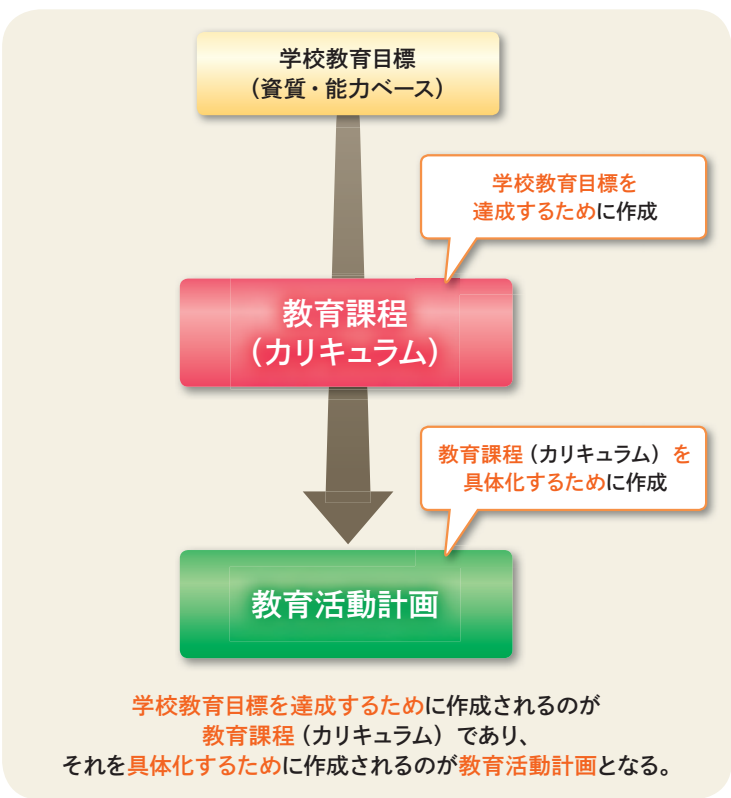


学校や地域が創り上げてきた文化(校風)など、教育の根幹である「不易」の視点と、社会の変化や地域の実情、生徒の姿といった「流行」の視点を踏まえて考えることが求められる。さらに、学校教育目標は、管理職などの一部の教師だけでなく、全教師がかかわりながら策定することが望ましく、策定した学校教育目標は、学校全体で共有することももちろん、地域や保護者などとも分かち合うことが重要である(図2)。

資質・能力の育成の道筋を示す

そして今号では、学校教育目標として明確化した資質・能力を何を学ぶことで育成するのかを示した「教育課程」と、教育課程で示した教科外としての学校行事・部活動等の教科外の教育活動をいつ、どのような指導観点・ツールで行っていくのかをまとめた「教育活動計画」について考えていく(図3)。

図3 学校教育目標・教育課程(カリキュラム)・教育活動計画の位置づけ



一般に、教育課程表は「何を教えるのか」を履修単位数とともに記述したものであり、そこからは学校教育目標として掲げる「育成する資質・能力」を見いだすことは難しい。そこで今号では、「学校教育デザイン」の考え方から、「何ができるようになるか」を見通す教育課程表のモデルとその作成について、まずは提案する。

さらに、授業などの教科の活動だけでなく、学校行事や部活動といった教科外の活動も含め、それぞれの教育活動を通じて生徒にどのような資質・能力を育むのかを明確化した教育活動計画が、今後ますます求められると考えられる。今回提案する教育活動計画も、まさに学校のすべての教育活動と学校教育目標とのつながりを明確化し、各活動における教師の指導、そして生徒自身の学びをよりよくするものとして参考にしたい。